

技術・家庭科学習指導案

授業者 安芸高田市立吉田中学校
教諭 田村 博美

- 1 日 時 平成16年9月10日(金) 5校時
- 2 学年・組 3年B組 後半17名
- 3 場 所 被服室
- 4 題 材 遊び道具をつくってみよう
- 5 題材設定について

(1) 題材観

幼児にとって遊びは生活そのものであり、身体の発育や運動の機能、言語、情緒、社会性などの発達を助け、人格形成にも影響する。市販の玩具以外に身の回りのものも幼児の遊び道具になる。そこで、生徒が身近な材料を活用し、安全への配慮や幼児の心身の発達に留意し、幼児の創意工夫を引き出す遊び道具を考案することは幼児の理解を深めることにつながると考えた。また、後日作ったものを用いて幼児の触れ合いやかかわり方を工夫し、活用する喜びや楽しみが味わえることは貴重な経験になると考え、本題材を設定した。

(2) 生徒観

本学級の生徒は学習に対して前向きに取り組み、グループでの話し合いや活動も協力し合い、積極的に作業などを行うことが多いが、なかには失敗を恐れ、様子を見ながら作業をしている生徒がいる。授業前に行ったアンケートでは幼児に対する興味・関心は5割程度であった。しかしながら、遊び道具づくりを楽しみにしている生徒は多く、過去の先輩が作った作品に興味を示す生徒も少なくない。

(3) 指導観

幼児期を振り返り、多くの人と出会い、そのかかわりの中で成長をしてきたことを感じている生徒がいる。しかしながら、身近に幼児と接する機会がある生徒は少なく、これまでの学習の中で、身体の発育や運動機能・心の発達を学習してきたが、具体的にはどの年齢で、どのようなものに興味を示し、遊ぶかを十分イメージできていない生徒が大半である。そこで、遊び道具の製作の手順を示し、製作に入る前にしっかりイメージをもたせ、その遊び道具で幼児の創意工夫を引き出させることができるか、素材や色合いを工夫できるか考えさせたい。製作にあたっては、特に安全面に十分配慮した遊び道具をつくらせたい。そして、遊び道具の製作を通して、幼児の遊びの意義について理解させたい。

6 題材の目標

- ・ 遊び道具の製作を通して、幼児の遊びの意義について理解する。

7 題材評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
幼児に関心を持ち 幼児の遊び道具の製作に取り組もうとしている。 幼児の遊びや遊び道具、遊びと発達とのかかわりについて考えようとしている。	幼児の心身の発達に応じた遊び道具について考え、工夫している。	幼児の遊び道具の製作ができる。	幼児にとっての遊びの意義について理解している。

8 児童と評価の計画（全4時間）

次	学習内容（時数）	評 価					評価規準	評価方法
		関	創	技	知			
1	・遊び道具に製作にむけて （1時間）					・ 幼児に関心をもち，幼児の遊び道具の製作に取り組もうとしている。 ・ 幼児に関心をもち，幼児の遊び道具について考え，工夫している。	・ 幼児の遊び道具製作に向けて計画書をまとめている場面（観察・計画書）	
2	・遊び道具をつくってみよう 【2時間（本時1/2）】					・ 幼児に関心をもち，幼児の遊び道具の製作に取り組もうとしている。 ・ 幼児の心身の発達に応じた遊び道具について考え，工夫している。 ・ 幼児の遊び道具の製作ができる。	・ 幼児の遊び道具製作に向けて計画書をまとめている場面（観察・計画書） ・ 幼児の遊び道具製作場面（行動観察・製作記録表・作品）	
3	・遊びの意義について考えよう （1時間）					・ 幼児の遊びや遊び道具，遊びと発達とのかかわりについて考えようとしている。 ・ 幼児にとっての遊びの意義について理解している。	・ 幼児の遊びや遊び道具，遊びと発達のかかわりについてまとめ発表する場面（発表・自己評価・相互評価）	

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・ 幼児に関心をもち，幼児の遊び道具の製作に取り組もうとする。
 - ・ ・ ・ ・ ・ (生活や技術への関心・意欲・態度)
- ・ 幼児の心身の発達に応じた遊び道具について考え，工夫する。・ ・ (生活を工夫し，創造する能力)
- ・ 幼児の遊び道具の製作ができる。・ ・ ・ ・ ・ (生活の技能)

(2) 観点別評価規準

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能
・ 事前に打ち合わせしていた準備物を持ってきている。 ・ 幼児に関心を持ち，夏休みの課題であった幼児の遊び道具の計画表をまとめている。	・ 幼児の心身の発達を考慮して遊び道具を工夫している。	・ 幼児の心身の発達とともに安全面を考慮して，遊び道具の製作をしている。

(3) 準備物

短冊，おもちゃづくりに関する参考図書，材料（学校準備分）

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 (「努力を要する」状況の生徒、 「十分満足できる」状況の生徒 への指導のポイント)	評価規準	評価方法
導 入	1 夏休みに立てた計画書と前時のワークシートを準備し、遊び道具製作の手順を確認する。 2 本時の課題を把握する。	忘れている場合は、教科書で確認をさせる。 何を見て確認すればいいか考えさせる。 計画書で確認させる。	・準備物の確認(関)	・行動観察
安全で、色合いが美しく、しかも丈夫な幼児の喜ぶおもちゃをつくろう				
展 開	3 各自の今日のめあてを発表させる。 4 計画書に基づき、遊び道具を製作する。 5 後かたづけをする。	限られた時間の中で製作していくので、時間を有効に活用することを確認させる。 保育実習の際、製作した遊び道具で幼児と遊ぶことを伝える。 過去の作品や本を参考にイメージをもたせる。 準備物がととのっていない生徒には、今できることを考えさせる。 製作しているおもちゃで幼児がどのような遊び方をするか、もう一度イメージさせ、幼児は気に入ったものであれば飽きずに遊ぶことを伝える。 次の1時間で仕上げるために、何をしておくことが必要かを考えさせる。 安全で、色合いが美しく、しかも丈夫な遊び道具であるかを確認させる。 針を使った生徒には、数を確認させる。	・幼児に関心を持ち、幼児の遊び道具の製作に取り組もうとしている。(関) ・幼児の心身の発達に応じた遊び道具について考え、工夫している。(工) ・幼児の遊び道具の製作ができる。(技)	・活動状況の観察 ・発表 ・活動状況の観察 ・活動状況の観察
ま と め	6 今日の学習を振り返る。 7 次時の学習内容を知る。	計画書に今日のすすみ具合と気付きや感想、次回に向けて何をしておくかをまとめさせる。 時間に余裕があれば、製作途中の遊び道具を見せ、発表させる。 この1時間を振り返らせる。 できあがった作品を評価させ、より幼児が喜ぶ遊び道具にするために何が必要かを考えさせる。	・幼児に関心を持ち、幼児の遊び道具の製作に取り組もうとしている。(関)	・計画書(製作記録表) ・作品

* (関)・・関心・意欲・態度 (工)・・工夫し創造する能力 (技)・・技能(知)・・知識・理解